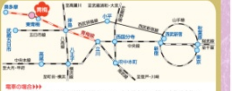
青梅市

観光歩き道マップ

調布の郷コース

◀青梅へのアクセス▶

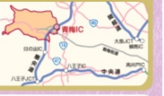


電車の場合▶▶▶

- ●東京・千葉方面から…中央線快速青梅行または、中央線立川駅乗換→青梅線青梅駅
- ●大宮・浦和方面から…武蔵野線西国分寺駅乗換→中央線立川駅乗換→青梅線青梅駅
- ●横浜・町田方面から…横浜線八王子駅乗換→八高線拝島駅乗換→青梅線青梅駅

自動車の場合▶▶▶

- ●東京・千葉方面から
中央道八王子JCT→
圏央道日の出IC→
国道411号
- ●さいたま方面から
関越道鶴ヶ島JCT→
圏央道青梅IC
- ●横浜・町田方面から
国道16号→国道411号



◀お問い合わせ▶

青梅観光案内所……………………0428-20-0011
(9:30～17:30・年中無休)
観光テレホンサービス……………0428-24-3400
観光情報ホームページ…………… 青梅市観光協会 で 検索

青梅市商工観光課観光係
〒198-8701東京都青梅市東青梅1-11-1
TEL:0428-24-2110
協力：一般社団法人 青梅市観光協会
（掲載情報は2010年12月現在のものです。変更の場合がありますので事前に電話等でご確認ください。）

調布の郷コース

JR青梅駅からJR東青梅駅の南に広がる「調布の郷コース」は、
ノスタルジックな街並や歴史的名所など
青梅の過去と現在を体感できるコースです。

「昭和の街 青梅」の玄関口

❶ ＪＲ青梅駅

青梅駅の開業は、明治27(1894)年11月。大正13(1924)年11月には、当時この地方では珍しい鉄筋コンクリート造りの駅舎となり、現在も現役で使われています。ホームにはレトロな雰囲気の待合室や立食いソバ屋があります。発車ベルも楽しいのでぜひ聞いてみてください。

青梅の由来となった「将門誓いの梅」

❷ 金剛寺

承平年間(931～937)の創建と伝えられ、本尊は白不動明王画像です。17世紀頃の建立といわれる表門（東京都指定有形文化財）などがあります。

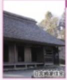
名木 **金剛寺の青梅**　金剛寺の境内には平将門の伝説をもち、都の天然記念物に指定された梅の古木があります。この梅は、秋になっても青い実を付け落ちないことから、「青梅」と呼ばれ地名の由来になったといわれています。

地域の芸術交流・発信の場

❸ 青梅市立美術館(市立小島善太郎(※1)美術館)

多摩川を望む景勝地に建てられ、絵画の近代化をリードした日本画家、洋画家、戦後の版画家の作品を中心に2100点以上を収蔵。新緑や紅葉なども美しく、近隣の散策とともにゆったりと鑑賞を楽しめます。

休館日：月(祝日の場合は翌日)　**開館時間**：9時～17時(入館は16時30分まで)　**入館料**：大人200円、小中学生50円
電話：0428-24-1195



青梅の歴史や民俗を伝える教養の宝庫

❹ 青梅市郷土博物館

釜の淵公園内にある市立博物館。青梅市内の文化財や歴史資料を展示しています。

旧宮崎家住宅　郷土博物館の隣にあり、昭和53(1978)年1月に国の重要文化財に指定されました。市内の別の場所から移築・復元されたもので、江戸時代の山間部の農家の生活がうかがえる貴重な建物です。

休館日：月(祝日の場合は翌日)　**開館時間**：9時～17時
(旧宮崎家住宅は冬季時間変更あり、お問い合わせください。)
入館料：無料　**電話**：0428-23-6859

青梅市民憩いの水の公園

❺ 釜の淵公園

多摩川と一体となった公園には、林の中の散策コースやトイレ、東屋が整備されています。桜や新緑が美しく、夏を中心に釣りや川遊びの人々で賑わいます。

若鮎の碑　大正2(1913)年に琵琶湖産の鮎をこの地に放流し、日本最初の放流養殖実験に成功したことを記念して像が建てられました。

板垣退助の像　明治時代に板垣退助をこの地に招いて鮎漁を楽しんだことを記念して、昭和36(1961)年に建てられました。

地域に愛される早春の妖精

❻ カタクリ群生地

3月の中旬ごろになると、山のふもと一面にカタクリが咲きます。地元の方々が草取りなどを行い、保護に努めています。

青梅と織物

青梅の織物は、鎌倉時代から本格的に織られるようになり、江戸時代には縞柄の絹織物である青梅縞が隆盛を極めました。その後、昭和20年代から30年代にかけてまに夜具地(布団に使われる生地)として一世を風靡しました。その時期は「ガチャマン景気」と言われ、織機が「ガチャ」と動けば「マン」の利益があるといわれるほど好景気で、市内には織物工場のほかに染色工場などが数多く存在しました。

「ジャパンブルー」を気軽に体験

❼ 藍染工房壺草苑

江戸時代に青梅縞に使われた綿糸は、藍で染められていました。体験工房では、すぐにできるハンカチやバンダナの藍染や、1日じっくり体験できるコースなどがあります。

休館日：火　**開館時間**：10時～17時30分　**入館料**：無料
電話：0428-24-8121
※ハンカチ1,260円、バンダナ1,890円など各種あり

ガチャマン景気の面影を現代に残す

❽ タオル工場(ホットマン)

ガチャマン景気は、生活様式の変化や外国製品に押されて終わりを迎え、多くの工場が閉鎖されましたが、現在でもこの地を中心に東京を代表するタオル工場や染物工場が生産を続けています。また、周辺には当時のノコギリ屋根の工場が残されており、昭和の郷愁を誘う風景を見ることができます。

ホットマン青梅店　**営業時間**：10時～17時　**電話**：0428-24-8142

現存する貴重な江戸初期の社殿

❾ 玉泉寺

文保年間(1317～1318)の開山で、本尊は十一面観音菩薩です。古くより仏光派の本寺として栄えて来ました。境内の古い湧水池畔に青梅七福神の一つである弁財天が祀られています。

「万年」に渡って橋が長持ちしますように

㋑ 万年橋の碑

架橋の歴史や苦労を記念し、昭和22年に造立されました。題字は日本画の巨匠川合玉堂、撰文は文豪吉川英治、碑文の書は歌人・国文学者・書家である尾上柴舟の筆によります。

不朽の怪談話の舞台

㋺ 雪おんな縁の碑

小泉八雲(※2)の著書「怪談」(初版1904年)の序文に、「雪おんな」の物語は、この地に伝わる古い言い伝えが基になっているとの記述があることから、それを記念して碑が建てられました。

おすすめ立ち寄り処

「調布の郷コース」にあるおすすめスポットです。

←梅岩寺

Ⓐ 梅岩寺 ～関東屈指のしだれ桜～

長徳年間(995～998)に寛明が開山したといわれ、本尊は虚空蔵菩薩です。境内には弘法大師像などの石造建造物が数多くあります。

名木 **梅岩寺のしだれ桜**　梅岩寺には2本の大きな桜があり、入口近くの木は市の天然記念物に指定されています。奥の山側の木は指定こそされていませんが、2本の桜が咲きそろう情景はとても見事です。

←映画看板の街並み

Ⓑ 映画看板の街並み ～青梅銀幕街道～

昔懐かしい映画の看板が商店の軒先や壁面に飾られ、古くからの建物と織りなす風景はレトロな雰囲気を醸し出しています。

←青梅赤塚不二夫会館
昭和レトロ商品博物館

←昭和幻燈館

Ⓒ レトロ3館 ～昭和の時代にタイムスリップ～

ＪＲ青梅駅から徒歩5分ほどの場所に、天才バカボンでおなじみの「青梅赤塚不二夫会館」、昭和時代の生活雑貨などのパッケージを展示した「昭和レトロ商品博物館」、昭和の情景のジオラマと映画看板を展示した「昭和幻燈館」の3つの博物館があります。

休館日：月　**開館時間**：10時～17時　**入館料**：青梅赤塚不二夫会館　大人400円、昭和レトロ商品博物館　大人300円、昭和幻燈館　大人200円。3館共通割引券は大人700円、小中学生は半額

←延命寺

Ⓓ 延命寺 ～安産子育ての「お呑竜さま」～

創建は応安2(1369)年6月、本尊は釈迦如来。境内には呑竜上人を祭る堂があり「お呑竜さま」と市民に親しまれています。青梅七福神の大黒天も祭られています。

←宗建寺

Ⓔ 宗建寺 ～裏宿七兵衛の墓をアスリート達がお参りに～

開山は宝徳2(1450)年で本尊は青梅七福神の一つでもある毘沙門天です。中里介山(※3)の小説「大菩薩峠」に登場する俊足の義賊として有名な裏宿七兵衛の墓や都の旧跡に指定されている根岸典則の墓などがあります。

←住吉神社

Ⓕ 住吉神社 ～例大祭で賑わう青梅の鎮守様～

創建は応安2(1369)年。例祭は4月28日で、山車の巡行は、青梅大祭として5月2～3日に行われ、特に3日は街道を埋め尽くす多数の露店や威勢のいい囃子で、関東でも屈指の規模を誇るお祭りといわれています。特に競り合いは一見の価値ありです。

←旧稲葉家住宅

Ⓖ 旧稲葉家住宅 ～宿場町の面影を残す土蔵造りの館～

昭和56(1981)年に都の有形民俗文化財に指定された旧稲葉家住宅は、青梅有数の豪商の住宅で、江戸時代後期の建築と推定され、規模も青梅宿では最大級です。

休館日：月(祝日の場合は翌日)　**開館時間**：9時～17時(冬季時間変更あり、お問い合わせください。)　**入館料**：無料
電話：0428-23-6859(青梅市郷土博物館)

←清宝院

Ⓗ 清宝院 ～境内のいろいろな石仏もお楽しみ～

創建は不明ですが、古くより大柳不動尊として知られています。本尊は不動明王で、青梅七福神の恵比寿尊も祭られています。

←延命地蔵尊・馬頭観音塔

Ⓙ 延命地蔵尊・馬頭観音塔 ～健康を願い、災いを取り除く～

延命地蔵尊は元禄10(1697)年に造立されました。地蔵尊にある白い石1個を借用し、体の具合の悪い部分をさすると、病気を治すことができるといわれています。病気が治ったら、御礼として多摩川から白い石をもうひとつ追加してお返しするそうです。馬頭観音塔は、馬の供養や無病息災祈願のために建てられ、村境、道の交わる場所、交通の難所に多く見受けられます。

←馬頭観音堂

Ⓚ 馬頭観音堂 ～生活に欠かせなかった馬の守護仏～

馬頭観音はインドの神様で、その様相から馬の守護神として、江戸時代には広く信仰されました。堂内の厨子に納められた観音像は背高一尺二寸(41.9cm)で、祭礼時以外は拝観することはできません。

←天祖神社

Ⓛ 天祖神社 ～立派な石段を登りましょう～

創建年代は不明で、天照皇大神、豊受比売大神が祭られています。古くは神明大神宮と称しましたが、明治3(1870)年に神明社に改称し、明治9(1876)年に現在の社名になりました。社宝として古鏡が伝わります。

←野村柿園

Ⓜ 野村柿園 ～色づく秋が待ち遠しい～

園内には、甘みが強く赤みがかった色が特徴の「東京紅」など9種類150本の柿が植えられ、9月中旬頃から11月下旬頃まで、もぎたての柿を直売しています。

電話：0428-22-9665
※収穫期、営業時間、料金等は、お問い合わせください。

←鹿島玉川神社

Ⓝ 鹿島玉川神社 ～東京都指定有形文化財～

承平年間(931～937)に源経基が武蔵介に任じられて下向した時、国家鎮護のため、巨大な神石があった当地に常陸の鹿島神宮の分霊を祀ったと伝えられています。

長渕山ハイキングコース

天祖神社から旧二ッ塚峠、馬引沢峠、赤ぼっこ、天狗岩を経由し、吉野梅郷までのコースです。所要時間はおよそ3時間です。

青梅観光案内所

青梅駅のすぐ隣にある観光案内所です。おすすめの観光スポットやお食事処などのご案内や各種地図、パンフレットを配布しています。

定休日なし　**営業時間**9時30分～17時30分　**電話**0428-20-0011

ミニ解説

※1 **小島善太郎**(こじまぜんたろう)(1892-1984年)
大正から昭和にかけて活躍した洋画家。二科展やフランスでのサロン・ドートンヌに入選後、独立美術協会を設立した。

※2 **小泉八雲**(こいずみやくも)(1850-1904年)
ラフカディオ・ハーン。小説家、民俗学者など。ギリシャに生まれ、明治23(1890)年、39歳のときに記者として来日。小泉セツと結婚し、日本に帰化する。『怪談』をはじめ、日本文化を欧米に紹介する著書などを残した。

※3 **中里介山**(なかざとかいざん)(1885-1944年)
小説家。代表作「大菩薩峠」は複数の新聞にて断続的に連載された未完の長編小説。